

# 一 畝農場 便り

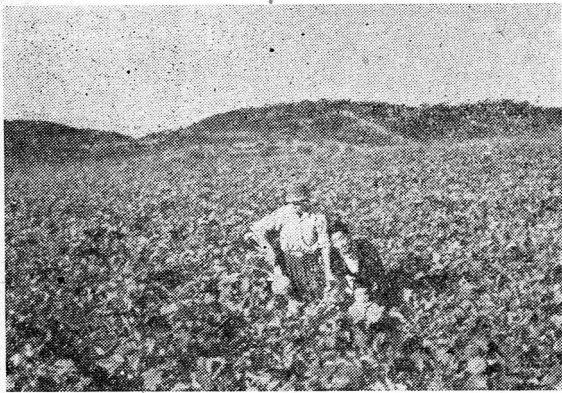
なかの

乳価や仔牛の価格の値下りで全国的に酪農の危機が叫ばれています。飼料作物を巧みに活用すれば酪農経営は微動だにしないものではあります。本誌では数回に亘つてこのことを力説して参りましたが、いまここに一つの事例をご紹介します。毎回申上げるように数多い飼料作物の内、その地方に適したどの作物をとりあげるかが問題ですが、愛知県東春日井郡篠岡村池之

内の塚本繁三氏の経営する一畝農場から、春の飼料作物の生育状況を御知らせいたしたのでその御手紙の一部を次に掲げます。六町歩の開墾地を八年に亘つて一畝一畝開拓していまは搾乳牛五頭、豚十数頭を飼育し安定した酪農経営を営んでおられる塚本氏の貴重な体験であり、暖地における飼料作物として有利な作物が数多くあることを実証していると思えます。



見事に生育したホワイトデントコーン、前方はルーサン



収穫前の下絵かぶ圃場（子供の頭と比べて御覧下さい）

（前略）  
昨年御教示賜りましたルーサン及びマウンテンブロームグラスは実に素晴らしい生育振りで現在二尺前後の草丈で、ブロームグラス（間作）との混合の割合も実に見事でいままでのルーサン単播に比べて下葉の黄化することもなく、初年度の収穫としては全く予想外で大よこびさせていただいております。いままでのルーサンは五年前に作付したもので品種は明確でございませんでしたが、この度のアトランティックは確かに私共の土地、気候にはただいまのところ非常に恰適しているように思われます。なお花はまだついておりません。  
次にクリムソククローパー、イタリアンライグラスは本年度作付しはじめてから二年目でございませぬが、これも予期通りの好成绩でクリムソククローパーはちよいちよい花がつきはじめましたので、現在専ら青刈して乳牛に給与致しております。乳牛は多少好まないように伺つておりましたが、その心配もなくどの牛も好んで喫食致しております。またレープは二度刈り致して見ましたが肥料さえ十分に施してあればかえつて二番刈の方が葉の数が多く良いように思われます。ケールをレープの代りに春先きの飼料として利用して見たい

と考えておりますが如何なものでございませうか。  
本年の夏作はサイロ用にはホワイトデントコーン青刈用にはブルゴーを主体に栽培してみてもございませぬ。スーダングラスは昨年は追肥に手が廻り兼ねましたのも天候の關係で一昨年程の収穫を上げ得ませんでしたので、本年は管理に十分手を廻し豊かな粗飼料を給与したいと考えております。またアフリカミレットは試作的に一年

## 牧草と園藝 八月號目次

- ◆表紙写真……………ヘーテッダーによる牧草の反転乾燥状況
- ◇赤クローパーの新系統ケンランドの紹介……………中野 富雄……………二
- ◇一畝農場便り……………なかの……………三
- ◇牧草類の経済的生存年限の観察……………安孫子六郎……………四
- ◇青刈草類の利用とその効果について……………七戸理三郎……………五
- ◇ぼたん（牡丹）について……………明道 博……………六
- ◇合理的な苜蓿の育苗と定植について……………田村 勉……………九
- ◇十字花科蔬菜の根瘤病とその防除法……………八畝 利郎……………三
- ◇これから庭を造る人々……………岸村 茂雄……………四
- ◇再認識されたEPN……………北海三共KK……………六

反歩程並行して作つて見るつもりです。

（後略）三〇、四、七

註 ケールは結球しないで四〜五尺に伸長する甘藍で、巨大な緑葉を豊富につける。

乳牛はもちろん豚や鶏に対しても極めて価値ある緑飼で、本誌第二巻、第十二号に「冬季用の粗飼料」と題して解説してありますが、栽培要領は甘藍と同様で、暖地ではレープにかわる早春の緑飼用として利用することができます。